公益財団法人サントリー芸術財団 サントリー美術館 107-8643 東京都港区赤坂 9-7-4 東京ミッドタウンガーデンサイド Tel: 03-3479-8604 Fax: 03-3479-8644

№ sma0049
（2021.1.21）

サントリー美術館　開館６０周年記念展
「ミネアポリス美術館　日本絵画の名品」開催

会期：２０２１年４月１４日（水）～６月２７日（日）

群仙図襖（旧・天祥院客殿襖絵）　狩野山雪　四面　江戸時代　正保３年（１６４６）
ミネアポリス美術館
The Putnam Dana McMillan Fund

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、２０２１年４月１４日（水）から６月２７日（日）まで、サントリー美術館　開館６０周年記念展「ミネアポリス美術館　日本絵画の名品」を開催いたします。

アメリカ中西部ミネソタ州最大の都市ミネアポリスに設立されたミネアポリス美術館（Minneapolis Institute of Art　通称Ｍｉａ〈ミア〉）は、１８８３年にミネアポリスの市民や実業家が美術協会を設立したことに始まります。現在では、世界各地の約９万点を超える美術作品を所蔵しており、そのうち、日本絵画のコレクションは、約２５００点の浮世絵をはじめ、質・量ともに国際的にも高い評価を得ています。近年でも在米の美術愛好家から多くの日本絵画・工芸が寄贈されるなど、今なお進化し続けるコレクションです。

本展は、Ｍｉａの日本美術コレクションの中から、中世から近代にいたる日本絵画の変遷を選りすぐりの優品でご紹介します。水墨画・狩野派・やまと絵・琳派・浮世絵・文人画（南画）・奇想派・近代絵画というように、江戸絵画を中心に日本絵画史の主要ジャンルをほぼ網羅するラインナップで、初の里帰り作品を含む貴重な機会です。展示室を訪れれば、きっとイチオシの絵師〈推し絵師〉に出会える

でしょう。時空を超えて一堂に集った人気絵師たちの華やかな競演をぜひご覧ください。

《　展示構成　》

第１章：　水墨画

花鳥図屏風　雪村周継　六曲一双　室町時代　１６世紀
Gift of funds from Mr. and Mrs. Richard P. Gale

水墨画は濃淡の調節が容易な墨という素材を用いて、対象の立体感や遠近感、そして微妙な光や大気の状態を表現することを特徴とします。その始まりは中国・唐時代（６１８～９０７）に遡り、日本には奈良時代から部分的ながら様々な経路を通じて伝えられました。

鎌倉時代、日中貿易の活況を通じて禅文化が興隆する中、鎌倉や京の禅寺では、南宋文化を身につけた渡来僧とともに水墨画が大量に流入しました。その後、禅僧の往来が減少してからも、日本国内での南宋絵画愛好の熱は衰えず、足利将軍家には多数の名品が蓄積されました。足利将軍家の美術文化は徳川将軍家にも一部分が継承され、南宋から元時代の絵画様式は、１４～１７世紀までの日本絵画の大きな柱となったのです。本章では戦国期・１６世紀に活躍した絵師を中心に、アメリカでも愛された水墨画の世界を紹介します。

【主な出品作品】　以下、すべてミネアポリス美術館蔵

・粟に雀図	藝愛	一幅	室町時代　１６世紀
・花鳥図屏風	雪村周継	六曲一双	室町時代　１６世紀
・龍虎図屏風	山田道安	六曲一双	室町時代　１６世紀

第２章：　狩野派の時代

瀟湘八景図屏風　狩野探幽　八曲一隻
江戸時代　寛文３年（１６６３）
Gift of the Clark Center for Japanese Art & Culture

狩野正信（１４３４～１５３０）に始まる狩野派は、血縁で繋がる「狩野家」を中心とした専門の絵師集団です。室町時代以降、時の権力者の庇護を受け、狩野元信（１４７７？～１５５９）と狩野永徳（１５４３～９０）の代におおいに発展しました。

江戸時代、政治の中心が江戸になると狩野派も本拠地を京から江戸へ移します。永徳の孫・狩野探幽（１６０２～７４）は、江戸幕府の御用絵師となり、余白を活かした瀟洒淡麗なスタイルで狩野派に革新をもたらしました。江戸時代を通じて幕府や各藩の御用をつとめた狩野派は、まさに画壇を制する画派となったのです。一方、永徳の門人で、その画風を継いだ狩野山楽（１５５９～１６３５）と山楽の養子・狩野山雪（１５９０～１６５１）の一統は、京に留まり、探幽とは異なる個性的な作品を描きました。山雪の「群仙図襖（旧・天祥院客殿襖絵）」は、ミネアポリス美術館の日本絵画を代表する作品のひとつです。本章では探幽ら江戸狩野と山雪・山楽ら京狩野の作品を通じて、狩野派の軌跡を特集します。

【主な出品作品】

・四季耕作図襖（旧・大覚寺正寝殿襖絵）　伝 狩野山楽
十六面のうち八面　江戸時代　１７世紀
・群仙図襖（旧・天祥院客殿襖絵）　狩野山雪　四面　江戸時代　正保３年（１６４６）
・瀟湘八景図屏風　狩野探幽　八曲一隻　江戸時代　寛文３年（１６６３）

第３章：　やまと絵 ―景物画と物語絵―

武蔵野図屏風　六曲一双　江戸時代　１７世紀
Mary Griggs Burke Collection, Gift of the Mary and Jackson Burke Foundation

平安時代、「唐（漢）」に対する「やまと（和）」の自覚を背景に、日本の風俗や事物を主題とする「やまと絵」が誕生しました。発生当初のやまと絵とは、中国的な主題の唐絵に対し、日本的な主題の絵画を指す言葉でしたが、次第に日本独自の絵画様式へと発展します。１３世紀後半に南宋朝（１１２７～１２７９）の中国絵画が広まり、それらが「唐絵」と呼ばれるようになると、それまでの伝統的な絵画様式がおしなべて「やまと絵」と称されることになりました。水墨を主とする唐絵に対して、濃厚な彩色による装飾性がやまと絵の特徴であり、仏教的主題をのぞけば、四季の風物を中心に描いた襖絵・屏風絵などの大画面と、『源氏物語』に代表される古典文学を中心に描いた絵巻･冊子絵本などの小画面に大別されます。ミネアポリス美術館には、屏風絵の優れた作品が多く収蔵されており、本章では移ろう四季や物語を表したやまと絵の世界を展観します。

【主な出品作品】

・西行物語図屏風　六曲一双　江戸時代　１７世紀
・武蔵野図屏風　　六曲一双　江戸時代　１７世紀
・誰袖図屏風　　六曲一双　江戸時代　１７世紀

第４章：　琳派

三夕図　鈴木其一　三幅対　江戸時代　１９世紀
Gift of Elizabeth and Willard Clark

琳派は１７世紀初頭に活躍した俵屋宗達（生没年不詳）を始まりとします。王朝文化復興の気運が高まる時代、京の絵屋「俵屋」を主宰し、本阿弥光悦（１５５８～１６３７）の書のための料紙装飾などを手掛けた宗達は、やまと絵や水墨画からモチーフを意匠化し、たらし込みの技法などを駆使した特色ある作風を生み出しました。その作風は光悦・宗達の作品に憧れた尾形光琳（１６５８～１７１６）に受け継がれ、さらには姫路藩主の酒井家の次男として江戸に生まれ、光琳に私淑した酒井抱一（１７６１～１８２８）へと続いていきます。抱一は江戸ならではの軽快さ、俳諧的な機知を加えた独自の作風を確立し、その弟子たちによって江戸琳派が形成されました。本章では宗達や抱一、抱一の高弟であった鈴木其一（１７９６～１８５８）らを中心に日本絵画を代表する琳派芸術の美を特集します。

【主な出品作品】

・伊勢物語図色紙「布引の滝」	伝 俵屋宗達	一幅	江戸時代	１７世紀
・源氏物語「秋好中宮」・白萩図	酒井抱一	団扇一柄	江戸時代	１９世紀
・三夕図	鈴木其一	三幅対	江戸時代	１９世紀

第５章：　浮世絵

市川鰕蔵の竹村定之進　東洲斎写楽　大判錦絵
江戸時代　寛政６年（１７９４）
Bequest of Richard P. Gale

冨嶽三十六景　凱風快晴　葛飾北斎　大判錦絵
江戸時代　天保元～４年（１８３０～３３）
Gift of Louis W. Hill, Jr.

江戸時代、大都市に発展した江戸において独自に花開いた新しい芸術があります。それが美人画・役者絵などに代表される浮世絵版画です。菱川師宣（１６１８？～１６９４）に始まるといわれる浮世絵は、市場の組織化と版元を中心とした絵師・彫師・摺師による分業体制の確立により、江戸を代表する美となります。最初期の版元が江戸の中心地日本橋近辺にあったため、浮世絵版画は江戸の人々だけでなく、地方の旅人たちにも求められました。墨摺から多色摺りへと発展していった浮世絵版画は「錦絵」とも呼ばれ、名所絵など新たな画題も誕生します。１９世紀半ばには版元の数は２６０を超えたとされ、名立たる絵師たちが活躍した浮世絵界は爛熟期をむかえます。本章では、ミネアポリス美術館が誇る浮世絵コレクションから選りすぐりの名品を紹介します。

【主な出品作品】

・三囲（みめぐり）神社の夕立　鳥居清長　大判錦絵三枚続　江戸時代　天明７年（１７８７）頃
・風俗美人時計　未ノ刻　娘　喜多川歌麿　大判錦絵
江戸時代　寛政１０～１１年（１７９８～９９）頃
・市川鰕蔵の竹村定之進　　東洲斎写楽　大判錦絵　江戸時代　寛政６年（１７９４）
・冨嶽三十六景　凱風快晴　葛飾北斎　　大判錦絵
江戸時代　天保元～４年（１８３０～３３）

第６章：　日本の文人画〈南画〉

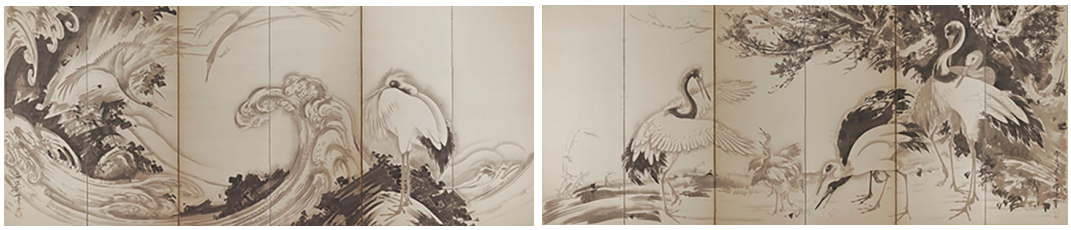
春秋山水図屏風　浦上春琴　六曲一双　江戸時代　文政４年（１８２１）
Mary Griggs Burke Collection, Gift of The Mary And Jackson Burke Foundation

日本の文人画（南画）は、江戸時代中期以降、長崎を通じてもたらされた中国の文人という概念や、明・清代の中国絵画に憧れた人々によって描かれた新たなモードの絵画です。当時、画壇を支配していた狩野派に代わる自由な創造性をもった絵画を求める気運が高まり、また、黄檗宗の伝来や儒学・漢詩文の普及に伴って中国文化への理解が幅広い階層で深まっていました。池大雅（１７２３～７６）・与謝蕪村（１７１６～８３）の二人によって大成される日本の文人画は、中国の知識人である文人への共感や中国文化への憧憬を背景に日本独自に発展し、東北から九州まで各地に広まることとなります。中国風の理想郷が描かれた山水画をはじめ、自らの旅の経験や実際の景色を見た感興が込められた真景図など、数々の魅力ある作品が生まれ、江戸絵画史に新機軸をもたらしました。

【主な出品作品】

・虎渓三笑図　与謝蕪村　一幅　江戸時代　１８世紀
・春秋山水図屏風　浦上春琴　六曲一双　江戸時代　文政４年（１８２１）
・松島図　谷文晁　一幅　江戸時代　文政９年（１８２６）

第７章　画壇の革新者たち



群鶴図屏風　曾我蕭白　六曲一双　江戸時代　１８世紀
Gift of Elizabeth and Willard Clark

江戸時代後期、文人画（南画）や写生画など、既存の流派や様式にとらわれない画風が存在感を示し、多様な作品が生まれます。なかでも近年高い人気を誇る伊藤若冲（１７１６～１８００）や曾我蕭白（１７３０～８１）に代表される「奇想」の絵師は、極端にデフォルメした構図の水墨画や細密な濃彩画によって独自の境地を開きました。

奇想の絵師の作品は、かつて評価があまり高くない時代もありましたが、アメリカをはじめ在外の日本美術愛好家によるこだわりのない批評眼によって優品の数々が収集され、散失されることなく今日まで伝えられています。

本展では若冲や蕭白に加え、多彩な江戸絵画を生み出す契機となった長崎派の作品も紹介します。江戸時代、外国への窓口であった長崎では、中国や西洋画が色濃く反映された絵画が生まれ、様々な画派に大きな影響を与えました。画壇を革新した絵師たちの挑戦をご覧ください。

【主な出品作品】

・群鶴図屏風　曾我蕭白　六曲一双　江戸時代　１８世紀
・旭日老松図　伊藤若冲　一幅　江戸時代　１８世紀
・喜報三元図　熊斐（ゆうひ）　一幅　江戸時代　１８世紀

第８章　幕末から近代へ

鍾馗鬼共之図　青木年雄　一幅　明治時代　１９世紀
Gift of Elizabeth and Willard Clark

明治になると西洋から「美術」という概念や新しい材料・技法がもたらされ、日本の絵画は大きく転換しました。伝統の技法や画派を継承する「日本画」と油彩画や水彩画など西洋の技法を用いる「洋画」という新しいカテゴリーが誕生し、浮世絵を母体にした新版画、創作版画も含め、日本の近代美術は多様な展開をみせていきます。

欧米の近代美術コレクションは日本美術の中では限定的ながら、ミネアポリス美術館には、例えば、海外でも高い評価が与えられた河鍋暁斎（１８３１～８９）や、パリ万博の実務者として渡欧した渡辺省亭（１８５１～１９１８）、アーネスト・フェノロサ（１８５３～１９０８）の知遇を得た狩野芳崖（１８２８～８８）らの作品を所蔵しています。また、肉筆浮世絵の流れをくむ美人画や新版画の作家の作品なども収蔵するとともに、明治前期に渡米した青木年雄（１８５４～１９１２）のような、アメリカならではの作品もあり、日本国内での再評価も期待されます。

【主な出品作品】

・お多福図　　河鍋暁斎　一幅　明治時代　１９世紀
・巨鷲図　　狩野芳崖　一幅　明治時代　１９世紀
・鍾馗鬼共之図　青木年雄　一幅　明治時代　１９世紀

画像はすべてミネアポリス美術館提供
Photos courtesy Minneapolis Institute of Art

【本展における展覧会関連プログラム】

◎学芸員による展示レクチャー

展覧会担当学芸員が詳しく展示作品を解説（スライド使用）

４月２５日（日）、５月２３日（日）

各日１１時～、１４時～（約４０分）／参加無料（別途要入館料）／事前申込優先

※当館ウェブサイトよりお申込みください。先着順。空席がある場合に限り、当日参加可能です。

◎当館ウェブサイトでは、展覧会をより楽しむための動画を公開する予定です。

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。その他のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

サントリー美術館　開館６０周年記念展

「ミネアポリス美術館　日本絵画の名品」

▼会　　期：２０２１年4月１４日（水）～6月２７日（日）

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼主　　催：サントリー美術館、ミネアポリス美術館、読売新聞社

▼協　　賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス

▼会　　場：サントリー美術館

東京都港区赤坂９－７－４　東京ミッドタウン　ガレリア３階

〈最寄り駅〉　都営地下鉄大江戸線六本木駅出口８より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口３より徒歩約３分

【基本情報】

▼開館時間：１０時～１８時

※金・土および4月２８日（水）、5月2日（日）～4日（火・祝）は２０時まで開館

※いずれも入館は閉館の３０分前まで

※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼休 館 日：火曜日

（ただし5月４日は２０時まで、6月２２日は１８時まで開館）

▼入 館 料：

・当 日 券：一般1,５００円、大学・高校生1,０００円、中学生以下無料

・前　　売：一般1,３００円、大学・高校生８００円

※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱

※前売券の販売は展覧会開幕前日まで

※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割　　引：

・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で１００円割引

※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日　時：４月１５日（木）、２９日（木・祝）、５月１３日（木）・２７日（木）、
６月１０日（木）・２４日（木）
１２時、１３時、１４時、１５時にお点前を実施
（お点前の時間以外は入室不可、及びお抹茶とお菓子は召し上がれません。）

会　場：６階茶室「玄鳥庵」　定員：各回１２名／１日４８名

呈茶券：１,０００円（別途要入館料）

※呈茶券は当日１０時より３階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様２枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：０３－３４７９－８６００

▼美術館ウェブサイト：http://suntory.jp/SMA/

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕内田〔広報〕吉岡

ＴＥＬ：０３－３４７９－８６０４　ＦＡＸ：０３－３４７９－８６４４

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：
２０２１年1月２１日（木）から　https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以　上